

めざす学校像・子ども像・教員像		課題	今後の改善方策
<p>○めざす子ども像</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たくましい心と体を持ち、自分とまわりの人を大切にできる子ども ・何事に対してもよく考え、判断し、行動できる子ども <p>○めざす学校像</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明るく活気に満ちた学校 ・地域保護者に信頼される学校 <p>○めざす教員像</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間性豊かで、協調性を備え、チーム城南を支える教員 ・教職専門職として指導力を身に付け、教育愛に燃える教員 		学力の二極化の解消	<ul style="list-style-type: none"> ・TTによるきめ細やかな学習支援とTTの効果検証を行う。 ・習熟度別の学習を取り入れ、児童の実態にあった指導を継続して行う。 ・分かる授業づくりのための、教材・教具の工夫や、授業展開の適正化を図る。 ・家庭と連携し、家庭学習の確実な実施を進める。
		不登校児童の解消	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度の児童の状況を確実に引継ぎ、継続した関わりを行う。 ・SSWやSCと連携し、児童と保護者の困り感の解消を図る。 ・家庭訪問や面談を通して、保護者との連携を密にとり、学校、保護者、外部機関等チームとして取り組んでいく。
		規範意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳の時間を使い規範意識の価値を見いだすようにする。 ・年間目標に規範意識に関する事項を設定し、毎月振り返りを行うようにする。 ・生徒指導部を中心に学年学級に具体的目標を設定し、定期的に評価するようにする。
重点目標	指標(取組指標・成果指標)	達成状況についての説明	
確かな学力の定着と向上を図る	・学習時間に「めあて」と「まとめ」を毎時間位置付ける。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習時間における「めあて」「まとめ」の位置付けや、言語活動の位置付けについては、概ね実施できた。しかし、学習内容によって「めあて」や「まとめ」を確実に位置付けるということができない場合もあったので、学力向上部とも連携して授業改善に取り組む必要がある。 ・全国学ryくが句集状況や定着度調査の結果からは、前年度の実績を維持するか向上していたので達成できたと考える。 ・下位群の児童の学力の向上を図っているが、個別指導においては、時間や人的な面の制約があり、十分に達成することはできなかった。 	
	・「聞く」「話す」「書く」という言語活動を位置付ける。		
	・国や市の学力調査において昨年度の結果に比較して評価ポイントが向上する。		
	・習熟度別指導において、中・上位群と下位群の差が縮まる。		
豊かな社会性と人間性を身に付ける指導の充実を図る	・定期的に学校生活アンケートを実施し、児童の学校における生活状況を把握する。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活アンケートを通して児童の困り感を把握したり、指導の成果を評価したりすることができた。困り感を把握した場合には早急に対応し、重症化しないように対応していくことができた。ただ、児童のアンケートだけではなく、教職員の実態を確実に把握する感性も磨いていく必要がある。 ・児童の規範意識については、若干の低下が見られたが、自己肯定感に関しては向上が見られた。年間を通して見たら、概ね維持できている。規範意識については、保護者や地域を含めた幅広い取組が必要である。 ・月目標の振り返りにおいて「できた」という児童の割合は、維持できた。教職員の日常の見取りと併せて児童を評価していく必要がある。 	
	・月一回全校で月目標の振り返りを行い、評価する。		
	・アンケート調査において児童の規範意識及び自己肯定感に関する肯定的な回答の割合が、維持・向上する。		
	・全校の月目標の振り返りにおいて「できた」という割合が維持・向上する。		
信頼される学校づくりの推進を図る	・毎月「学校だより」を発行し、学校の考えや子どもの状況を発信する。	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月学校だよりを発行し、学校の考えや児童の状況を発信することができた。 ・連絡帳や電話で済ませるだけでなく、実際に面談を通して保護者の思いや児童の家庭での状況などを聞き、困り感を把握することの必要性を日頃から話していくことにより、徐々に浸透してきている。 ・保護者アンケートによる満足の割合は、昨年度と同等の評価を得ている。 ・学習参観への参加については、若干増えているが、懇談会への参加については若干減少傾向にある。魅力ある懇談会の運営をPTAも含め検討する必要がある。 	
	・定期の家庭訪問以外にも、必要に応じて家庭訪問や面談を行い、保護者との意思の疎通を図る。		
	・児童の学校生活における保護者アンケートにおいて、「満足する」の割合が維持・向上する。		
	・学習参観及び懇談会への保護者参加の割合が維持・向上する。		
学校関係者評価についての説明(評価委員からの意見・要望・改善に向けた提言等)			
<ul style="list-style-type: none"> ・教科に関する授業を参観したが、すべての学級において「めあて」と「まとめ」の表示が板書にしてあり、何を学習し、何が分かったのかという1時間の授業の流れが明確にされていた。 ・学習中形態を個から小グループや小グループから全体など工夫されており、様々な子どもが対応できるようになっていた。 ・先生たちは、どの学級も熱心に、子どもへの指導を行い、一定の学習規律が身に付いていた。 ・学校において我が子の実態を十分に把握できていない保護者が多いのではないかと。 			